

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700279		
法人名	メディカルケア御所ノ内株式会社		
事業所名	御所ノ内ホームときわ(夕霧ユニット)		
所在地	京都市右京区太秦青木ヶ原町7-2		
自己評価作成日	令和6年1月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700279-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700279-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「人・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	令和6年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年に開所した地域密着型サービス事業所として、利用者様が安心して過ごして頂ける事を基本として運営しています。京都武田病院と連携し、主治医と看護師・介護士とが協働してスピーディかつ適切に受診できる体制を整えています。季節ごとに行事を催し、利用者様の満足度を高めるように丁寧に作り上げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は、1階に小規模多機能型居宅介護事業所、2階と3階の一部にグループホーム、3.4階に介護付き有料老人ホームを備えた複合型の高齢者施設です。この4年間を新型コロナ対策に費やしましたが、ようやく昨年春頃から緩和の兆しが見え、家族との外出・外食などは自由にできるようになりました。ただ、面会はまだ制限付きです。屋内では利用者と食事やおやつ作りを楽しみ、正月や敬老の日にはランクアップのおせち料理や松花堂弁当、節分やひな祭りには手作り寿司、納涼祭には屋台メニューなどを楽しんでいます。また、毎日の散歩や買い物、初詣、花見、紅葉ドライブなどの外出機会も増えています。地域とは夏祭りの手伝いや防災マップの作製などで連携しています。一方、排泄面では、看護師の提案から服薬変更に至り、快便と安眠、皮膚状態の改善が見られるようになった例があり、チームケアによる効果も実感できています。さらに、系列の医療機関と事業所の看護師による24時間のサポートや重度化した場合の医療機関との連携もスムーズで、利用者や家族には心強い支えです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で3つの約束を掲げ、職員は理念の確認を継続している。 ・家庭的で温かなケアを提供します。 ・ひとりひとりに寄り添うケアを心がけます。 ・確かな知識・技術・方法でケアを行います。	法人理念をもとに、ユニットごとの目標である「レクを通して喜びや楽しみを見出してもらう」を定め、職員が見やすい位置に貼り、多くのレクリエーションを実施し、実践に繋げている。また、職員向けには、「積極的に業務に取り組む」などを決め、年度末に職員間で目標の見直しをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ感染対策を行った上で8月に、ご町内の地藏盆に参加させて頂きました。ご町内の皆様と入居者様との会話もあり、良い交流ができたと思います。	町内会に入り、夏祭りのスタッフとしておにぎり配りなどを担当した。以前のように高校や幼稚園との交流や地域を招いての事業所の祭りなどはできていないが、センター長が地域の総合防災訓練に参加して防災マップの作製をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いたことを踏まえ、地域との交流を通して高齢者の理解を広めたい。常磐野学区の総合防災訓練に参加し、防災マップの作成に協力した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は第3回目から通常通りの運営推進会議を実施し、状況の報告を行い、様々な意見を伺う事でサービス向上に繋げている。	運営推進会議には地域包括支援センターや、自治会長や、民生委員、老人福祉委員などの参加があり、活動報告や行事予定、事故・ヒヤリハットの報告や地域情報などの意見交換がなされている。事業所の広い交流スペースを生かした地域の高齢者の居場所作りへの提案も出ている。	小規模多機能型居宅介護事業所・地域密着型特定施設入所者生活介護事業所・グループホームの3事業所が合同で運営推進会議を開催しています。議事録にはどこの事業所の報告が分かるように記載されては如何でしょうか。また、議事録の全家族配布も望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	重大な事故や感染症が発生した場合は、行政へ報告している。 また、右京区事業者連絡会に参加している。	運営推進会議議事録を行政に持参している。センター内の事業所が交代で毎月の右京区事業者連絡会に参加している。保健所のスタッフ3名が、新型コロナの5類移行に伴う取り扱い上の変更点の説明に来所された。その他各種相談や請求業務の問い合わせ、事故報告などもしている。消防訓練に消防署員の立ち合いがある。	

京都府 御所ノ内ホームときわ(夕霧ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・虐待防止委員会の他に、身体拘束・虐待・権利擁護をテーマに、施設内研修を行っている。	「身体拘束等適正化のための指針」を備え、3ヶ月に1回、センター長、管理者、ユニットリーダーとで委員会を開催し、年2回職員研修をおこなっている。議事録はユニット内で回覧し、各職員は閲覧後押印している。ユニット入り口は施錠しているが、外に出たい時は職員と一緒にコンビニエンスストアや業務用スーパーに買い物や散歩に出かけ、車いすの方とも出かける機会を持っている。	委員会記録は回覧し、研修は交代勤務のため限られた職員だけが受け、ほかの職員は回覧資料で確認・押印をされています。しかし、個々の職員の学習成果が記録として残っていません。身体拘束はリスク管理にも通じる重要な問題ですので、報告書やチェック表などにより、各職員の習得度の確認が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時から契約に至るまで十分に時間をかけて、丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日常の会話を通して、家族様には常日頃の連絡の際に要望を伺い、ケアプラン更新時に反映させている。	普段から本人の意見を聞き、食べ物や、外出の要望などに応えている。意見箱に意見は入っていないが、家族にはアンケートや介護計画書作成前に電話で意向を聞き取り、意見を反映させている。面会や外出などの要望が多く、徐々に緩和し外出も自由になっている。普段は交流スペースでの面会であるが、衣替えの時は家族に居室に入ってもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議での意見の確認を行い、主任の方から話を持ち掛け、意見を引き出しやすいように心掛けている。	職員には普段から、また会議や委員会などで意見を聞いている。提案を受け、保温パット「あずきのチカラ」などを購入している。「自己評価表」を用いて、人事考課を兼ねた年2回の面談でも意見を聞いている。毎月希望休を聞き働きやすくしている。	

京都府 御所ノ内ホームときわ(夕霧ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には介護福祉士等の資格取得を積極的にしてもらうよう奨励している。介護職員実務者研修の受講をしやすいかために勤務調整をすることで協力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意向も重視しながら、施設内研修に積極的に参加できるようにサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	右京区のグループホーム交流会の主催者が施設見学に来られた。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接前よりできる限り情報を集め、アセスメントを実施している。新しい生活に馴染めるようコミュニケーションを第一にして接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活に馴染めるよう、本人がどのような事を不安に思っているか、また家族の希望を把握し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、会話やレクリエーションを通して、楽しみや喜びをお互いに分かち合えるよう、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は本人の事を大切に思っておられ、家族の思いを職員全員で共有してケアしている。		

京都府 御所ノ内ホームときわ(夕霧ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報の保護を踏まえて、知人との関わりを大切に、本人の活力維持につなげている。	家族の面会も多く、2日に1回来られる近所の知人もある。毎月写真入りの手紙や月刊紙「ときわ日記」を家族に送付している。ブログで日々の様子を発信している。プランターで花や野菜を育てる方もある。誕生日会の花を皆で活かしている。洗濯や調理などの家事、体操、生活リハビリを日々おこない、貼り絵や歌なども楽しんでいる。携帯電話の充電を手伝うと自分で家族や知人に電話をかける方もある。家族と墓参りに行かれる方もあり、馴染みの暮らしの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性もあるので、トラブルになることがあれば、席の位置を変えたり、職員が仲裁に入って対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の相談があれば、可能な範囲で応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり、それぞれ思っている事に違いがあるので、丁寧に傾聴を行う事で、安心できる生活に繋げている。	日々の記録に本人の言動と介護内容を細かく書き留め、夜間帯は赤字で記入している。家族からも入所前や若い頃の話聞き、支援に生かしている。以前ジャズやクラシックが好きだったことを入所後数年経ってから本人からふと聞き、意外な発見をすることもあ。利用者は新聞のチラシなどを見て寿司やケーキなど食べたいものの要望を出し、食事レクリエーションや誕生日などに実現してもらっている。	アセスメントシートの各項目が身体状況に特化された簡素なチェック形式で、日頃の細かい気づきや本人の思いや変化などが十分反映されているとは言えません。アセスメントシートの充実により、介護計画の確かな根拠づけと、他利用者との個別化を図られるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様から、これまでの生活歴や好みを聞き出し把握した上で、生活のペースを整えている。		

京都府 御所ノ内ホームときわ(夕霧ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の職員からの報告の他、毎月のユニット内でカンファレンスを行っている。ケアプラン更新時には本人・家族様から意向をお聞きし、スタッフ一同で支援を行っている。	本人や家族の意向、アセスメントシートやケア会議での話し合いをもとに、約6か月ごとに介護計画を作成し家族等の同意を得ている。計画は3か月ごと及び急な変化があった際に見直し、必要時は6か月以内でも計画を更新している。職員は介護計画の何番目を実践したかを支援記録につど記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアをしている中で、気付いた事をスタッフ間で相談・検討し、サービス内容の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの認知症のレベルに合わせたケアを行い、認知能力や行動能力の低下があった場合は、速やかに支援方針を変更している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事への参加、高齢サポート・常磐野との関わりを重視し、社会資源の把握や情報をスピーディに集められるよう、連携に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	京都武田病院が訪問診療を行っている。在宅時からのかかりつけ医に通っている方もいる。	以前のかかりつけ医の継続もできるが、入所後全員が事業所の提携医療機関に変更し、月2回訪問医師の診療を受けている。提携医療機関への通院は事業所が送迎している。事業所の看護師とも連携し、24時間の医療的サポートがある。他の病院受診には家族が付き添っている。必要な方は訪問歯科医の診療で義歯の調整などを、また別の日に歯科衛生士による口腔衛生指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム担当看護師がいる。また、24時間オンコール体制を実施。連携病院の医師、看護師との連絡は看護師が中心になって行っている。		

京都府 御所ノ内ホームときわ(夕霧ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	京都武田病院と連携を取り、入院時にはサマリーを提出している。退院時にはカンファレンスを行うこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や看取りについて説明を行い、家族様には延命についての意思確認を書面にて記入して頂いている。	「重度化した場合の対応の指針」、「事前意向確認書」により、契約時に本人や家族に説明し意向を聞いている。当事業所での看取りはおこなわない旨も説明している。この1年の退去者のうち、5名が入院後逝去され、あと2名は特別養護老人ホームへの入所と病院での療養をされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等対応のマニュアルを各ユニットに配置し、救急対応をテーマにした施設内研修も実施している。施設長、管理者、主任、看護師は24時間オンコール対応となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回、風水害訓練は年に1回、地震訓練も年に1回実施している。第2回目は自治会役員にも参加を呼びかけている。	消防訓練は年2回昼夜想定でおこない、自然災害の訓練も加え、利用者も参加している。うち1回は消防署が立ち会い、地域にも呼びかけたが参加はなかった。救急救命の訓練もおこなっている。事務所のAEDの使用を地域にも呼び掛けている。水、米、ムース食などの備蓄があり、衛生用品は多めに仕入れている。事業所は災害の避難指定区域ではないが、センター長が常盤野学区の総合防災訓練に参加している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修では権利擁護をテーマに行っている。羞恥心に配慮し、入浴時の同性介助や排泄介助を行っている。丁寧な言葉遣いを心掛けている。	認知症の理解・接遇研修等の報告書を回覧して職員に周知している。「虐待の入り口は言葉遣いから」と考え、不適切な対応には管理者などが職員に指導をしている。名前は苗字に「さん」付けで呼び、同姓の方は下の名前で呼んでいる。他の方がトイレを開けないように扉に「使用中」の札をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を把握し、傾聴しながら自己決定を促している。		

京都府 御所ノ内ホームときわ(夕霧ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで、厳密に時間は設定されてはいない。日中と睡眠のバランスを整え、安心感を持って生活してもらえるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の洗濯は、こまめに行い清潔を保っている。毎月、訪問理美容も導入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事やイベント時は特別食を提供している。その他、手作りの食事レクレーションも頻繁に行っており、混ぜたり盛り付けなどの簡単な調理に参加してもらっている。	午前中に昼食、午後には夕食と翌日の朝食が業者から届き、温めて提供している。ご飯は事業所で炊き、昼と夕の汁物は寸胴鍋で届く。朝パン食の方には、ユニットで用意したものや家族の差し入れを提供している。希望を聞き、焼きそばや中華のレクリエーションを実施したり、寿司の出前をとったり、行事食を豪華おせちや松花堂弁当にグレードアップしてもらうなどの工夫をしている。刻み、ムース食も業者に依頼している。おやつのカップケーキにホイップやフルーツを利用者と飾りつけ、糖質ゼロの天然甘味料で健康に配慮し、視覚的にも食欲をそそるようにしている。鬼さんケーキ、おやつバイキングなどと趣向を凝らし、その様子をブログで発信している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と施設看護師と介護士が連携して、食事形態を変更している。栄養補助食品を摂っている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄を行っている。訪問歯科による治療も受け入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表等を活用し、排泄間隔を把握し、トイレ誘導を行っている。できることはご自身でやっていただいている。	布パンツの方もいるが、殆どが紙パンツにパットの組合せで、トイレでの排泄を支援している。夜間にポータブルトイレ使用の方もいる。排便コントロールが難しく皮膚状態や睡眠に影響が出ていた方が、医師に相談して漢方薬に変更したところ、安眠でき、肛門周辺の皮膚炎が軽快した例がある。	



京都府 御所ノ内ホームときわ(夕霧ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の内服管理、水分量の把握、適度な運動を行っている。乳酸菌飲料なども積極的に摂っていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や排泄状態などを確認し、個人に合わせて実施している。個浴対応が難しい方は、本人の負担も減らせるようシャワー浴や機械浴の対応にしている。	週2回以上の入浴で、希望者は増回もできる。早出の職員が入浴を担当している。クリスマスプレゼントの入浴剤を使用したり、柚子湯やしょうぶ湯を楽しむこともある。個浴でゆったり入浴している。座浴で車いすごと入れる浴槽もあり、重度化しても本人や職員に負担がかからず、利用者は爽快感が味わえている。入浴拒否の方は時間やスタッフを変えて対応している。現在同性介助にこだわる方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にしっかりと睡眠を取っていただくよう、日中はレクリエーションやストレッチ体操で体を動かしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と介護士とで服薬の管理をしており、処方が変わるごとにチーム内に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みや食器拭きの手伝い、ぬり絵や工作などの創作の機会も積極的に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年度はコロナ感染対策を行った上で、紅葉ドライブを実施した。家族様との外出も緩和され、短時間ではあるが楽しんでいただいている。	普段から散歩によく出かけ、春には嵐電沿いの桜や前の高校の桜を楽しんでいる。近くのコンビニエンスストアや業務用スーパーへカップ麺などを買いに行っている。正月には近くの神社に初詣に、春は広沢の池近くの桜守の方の庭園に、秋は西京極球場などにリフト車で出かけている。家族との外出・外食も自由で、通院帰りに家族とランチを楽しめる方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金は預り金として扱っている。買い物希望があれば、買い物同行や代行で対応している。		

京都府 御所ノ内ホームときわ(夕霧ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在1人、携帯電話を所持している方がおられる。認知能力低下防止にも繋がっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内や廊下・トイレは毎日掃除を行い、清潔を保っている。季節ごとの壁面飾りの創作の手伝いをさせていただき、季節を感じて過ごせるようにしている。定期的に換気も行っている。	北面に大きな掃き出し窓と高窓があり、採光はよく、高窓を開けて換気をしている。対面キッチンの続きに広々としたリビングがあり、廊下は回廊式になっている。壁には利用者の季節の作品が貼ってある。1ユニットに車いす用を含め、4箇所のトイレがある。3卓のテーブルでは人間関係を考慮し、座る位置に配慮をしている。ここで体操や家事、創作、レクリエーションなどをされ、誕生日会の後はプレゼントの花を活けて皆で楽しんでいる。常時テレビを付け、相撲、のど自慢、駅伝、大河ドラマなどを見ている。国会中継の好きな方もいる。広いベランダは散歩もでき、見晴らしもよい。掃除は主に職員がおこない、利用者も手伝う。事業所全体に清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルが起こらないように配慮しながら、仲間意識が生まれるような座席配置を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真立てや、長年使っていた物などを入居時に持参していただいている。ご家族様からのプレゼントを飾っておられる方もいる。	表札に小作品を飾ったり、本人の好みで名前を掲げていない部屋もある。ベッドや防水マットレス、防災カーテン24時間換気システムなどが予め備わっている。掛け布団、タンス、衣装ケース、ハンガーラック、ラジカセ、お気に入りの絵や家族写真や写真集などを自宅から持ち込まれている。好きな猫グッズで部屋を埋めている方もいる。北側は高校で、周辺の建物とは間隔があき、居室内は明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングでは転倒リスクが減るように動線のパターンを考え、職員が見守りやすい配置にしている。居室内では、ご自分で動きやすいようなレイアウトにしている。		